

ブラジル オレンジの収穫予測が病害と干ばつで下方修正

[FreshFruitPortal 2025年12月12日](#)

ブラジルのオレンジ収穫予測はカンキツグリーニング病と干ばつで約4%減少

ブラジルの柑橘類栽培保護財団(Fundecitrus)は、2025/26年度のオレンジ収穫予測を発表した。それによると、総生産量は2億9,481万箱(90ポンド(40.8kg)/1箱)で、9月時点の予測より3.9%減少した。5月に発表された同基金の当初の予測はさらに楽天的で3億1,460万箱と予測しており、**ブラジルのオレンジ産業の現状はこれに比べて6.3%の減となる。**

同財団は、予測生産量の減少の要因は、降雨不足による果実の小玉化及び予想落果率の上昇であると説明している。予想落果率は、**カンキツグリーニング病の病状の深刻化、収穫ペース及び気候条件が影響し、23%に達している。**

ブラジルのオレンジ産業への気候変動の影響

ブラジル気象局(Climatempo)によると、2025年5月から11月までの柑橘類ベルト(主要産地)の累積降雨量は392ミリで、**過去の平均(489ミリ)に比べて20%少なかった**。ポルトフェレイラ地域のみが2%増と平均を上回ったが、トリアングロミネイロ地域及びベベドーロ地域ではそれぞれ降水量不足が47%及び40%に上った。

Fundecitrusは、「9月の第2回推計値が公表されるまでは、収穫の進捗状況から、ペラ系品種の生産量のかなりの部分が、春に降ると予測されていた最も強い降雨の後に収穫される見込みであった。しかし、同月の柑橘類ベルトの平均降雨量はわずか20ミリで、平年値を70%下回る水準であった」としている。

同財団はさらに、10月の降雨は月の後半になってようやく強まったため、同地域では数ヵ月間の干ばつが長引き、**その時期に収穫されたブラジル産オレンジの生育に悪影響を及ぼした**と説明した。

平均すると**1果実当たり9月時点の予測より4グラム軽く**、その結果、90ポンド箱を満たすのに必要なオレンジの果実数が258個から265個に増加したと同財団は指摘している。

品種別の落下率

1箱当たりの果実数は、ハムリン、ウェステイン、ルビの各品種については305個、その他の早生品種については272個と安定している。ペラ系品種は1箱当たり261個から267個に増加し、バレンシア及びフォリヤムルチャでは235個から248個に増加した。ナタル品種も242個から248個に修正された。

落果率については、**カンキツグリーニング病の深刻化により2024年の19%から2025年には22.7%に上昇し、ブラジルのオレンジ産業の潜在的生産力を約35%低下させた**。同財団は、「落果率が前回2回目の推計における22%から今回の23%に上昇したことの大部分はこれによって説明できる」としている。

Fundecitrusのジュリアーノ・アイレス専務理事は、天候不順とカンキツグリーニング病の平均的な深刻度の悪化が、**ブラジルのオレンジ産業の生産性に直接的な影響を及ぼしている**として、「病害の拡大率は低下してきているが、平均的な深刻度は上昇している。現在、カンキツグリーニング病に感染したオレンジの樹の26.5%が樹冠の75%以上に症状を示しており、これが水不足と相まって落果率を高めている」と述べた。